

令和3年度 共同生活援助事業所ぴあ 事業実績報告書 (共同生活援助事業)

第1 総括

令和3年度は、ご利用者が地域においてより豊かな生活が送れるようご利用者一人ひとりの希望に沿った支援サービスの提供を基本として、生活の質やご利用者の重度、高齢化に配慮した対応を進めました。

また、昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症対策については、各職員の予防対策に関わる意識の向上が図られるよう国や道のガイドライン及び法人の感染対策方針等に基づき、日々の清掃消毒などの実施や各種会議等において感染予防に対する情報発信と注意喚起の徹底を行いました。

なお、地域支援事業の実施にあたっては、ご利用者に対する包括的な支援を更に推進するために、関係機関と連携し地域における共生社会を意識した事業運営に努めました。

令和3年度は、次の7点を重点的に取り組みました。

1 居住支援サービスの提供

個別支援計画書に基づき、ご利用者一人ひとりの障がい特性やニーズに配慮した中で、合理的配慮をもって適正な支援に努めました。

また、定期的にモニタリングを実施し、ご利用者へ適切な支援サービスが提供されるよう計画内容の見直しや充実を図りました。

2 権利擁護体制の充実

ご利用者が過ごしやすい環境となるよう、ご利用者一人ひとりの意見や要望に配慮した適切な対応に努めるとともに、職員の意識向上を目的として人権等に関する研修会の参加を推進しました。

3 健康、衛生管理体制の強化

ご利用者が地域において安心して生活ができるよう、新型コロナウイルスを含む感染症等の予防対策として、日々の健康チェックや手指消毒などの基本的な感染予防対策の徹底を図りました。また、ご利用者の心身の状況の把握に努め、必要に応じて医療機関と連携し疾病等の早期発見や治療などを行いました。

4 余暇活動支援の充実

ご利用者の余暇時間の充実を目的として、新型コロナウイルス等の感染症に留意した中で小規模によるウォーキングや外出、旅行、室内レクリエーション等を実施しました。

5 事故防止の徹底と各種マニュアルなどの見直し

ご利用者の事故等による怪我などを未然に防ぐために、ヒヤリハットや事故報告などの事例を職員会議等で周知や検証を行うとともに、必要に応じて関連するマニュアルなどの見直しを行うなど、ご利用者の安全な生活環境の提供に努めました。

6 人材育成の推進と接遇マナーの徹底

専門性を兼ね備えた福祉人材の育成を目的として、各種研修会及び接遇セミナー等への参加を積極的に推進しました。

7 法人40周年記念事業の推進

法人40周年記念事業について、家族会や他の事業所と連携し円滑な事業の推進に努めました。

第2 運営組織

(1) 職員配置状況 (令和4年3月31日現在)

区分	管理者	サビ管	生活支援員	世話人	総務	計
男性	1	1 (1)	4	(4)	(1)	6 (6)
女性			8	13 (7)	(2)	21 (9)
計	1	1 (1)	12	13 (11)	(3)	27 (15)

※ () は兼務職員

第3 ご利用者の状況 (令和4年3月31日現在)

(1) 各共同生活住居における利用状況

区分	ぴあ	えーる	はるか	ういんぐ	あゆみ	らいふ	あおぼ	ひかり	合計
男性	7	4			1		6	4	22
女性			6	6	3	4			19
計	7	4	6	6	4	4	6	4	41

(2) 障害支援区分等

区分	障がい程度			障害支援区分							
	A	B	計	非該当	1	2	3	4	5	6	計
男性	5	17	22	0	0	2	13	6	0	1	22
女性	5	14	19	0	0	1	9	5	4	0	19
計	10	31	41	0	0	3	22	11	4	1	41

(3) 年齢別

区分	~20 未満	20~ 29	30~ 39	40~ 49	50~ 59	60~ 69	70 以上	最高 年齢	最少 年齢	平均
男性	1	1	2	5	7	2	4	76歳	19歳	52.8歳
女性	0	0	0	2	9	6	2	73歳	41歳	58.9歳
計	1	1	2	7	16	8	6			55.8歳

(4) 障がい別

区分	てんかん	自閉傾向	統合 失調症	身体 障がい	ダウン症	視覚 障がい	聴覚 障がい	内部疾患	体幹機能	強度行動 障がい	心因反応	その他
男性	2		4				2					
女性	4		4	2		1						
計	6		8	2		1	2					

第4 事業と運営実績

1 事業の内容

共同生活援助事業 定員42名（男性22名、女性20名）

- ・共同生活住居8ホーム、サテライト型1カ所

相談、食事の提供、健康管理、金銭管理、入浴・排泄等の介護など基本的日常生活動作について、ご利用者一人ひとりの障がい特性やニーズに配慮した中で、合理的配慮をもって支援を行いました。

2 運営実績

(1) 事務係

事務係は、事業所運営の庶務、会計、管理を行い、ご利用者への間接的な支援と経営管理を行いました。

項目	事業内容	具体的な内容
事業運営	経営基盤の安定・強化	計画的な予算執行と適正な在庫管理を進めるとともに、予算の執行状況について、定期的に会議等で周知し改善を進めるなど経営意識の共有化と効果的な事業運営を推進しました。
	金銭管理等の強化	金銭等の取り扱いは、法人施設と連携して適正な管理に努めました。
	新規ご利用者の獲得に向けた取組み	近隣の高等養護学校等への訪問と電話連絡などとおして、新規ご利用者の獲得に向けたご利用者のニーズ把握に努めました。
	献立の充実	栄養士が定期的にグループホームへ巡回し、適正な食事提供と健康維持増進に必要な助言、対応を行いました。また、ご利用者の状況に応じて提供される治療食、特別食等については、個別支援計画に記載のうえ、適切に対応しました。
	施設等保全管理	各所の定期点検や確認をとおして、必要に応じて設備等の修繕、更新等を行いました。
	職員・ご利用者の健康管理	年2回（職員は年1回）、定期健康診断及び生活習慣病予防検診を実施し、疾病等の早期発見、治療に努めました。また近年、夏季における気温上昇が著しくホーム内が高温傾向のため、各ホーム居間にエアコンを整備し、熱中症のリスク軽減を図りました。
	防災・防犯体制の整備	ご利用者が安全かつ迅速に避難できるよう火災や大規模な自然災害を想定した避難訓練を計画的に実施しました。また、各種マニュアルの点検や確認を適宜行い必要に応じて見直しや改善を行いました。
	広報活動の強化	SNSや広報誌等を活用し、グループホームにおける取り組みや生活の様子などを情報発信するとともに、チラシの折込をとおして世話人の積極的な確保に努めました。

(2) 生活支援係

生活支援係は、生活支援員が巡回支援等をとおして、適切な支援サービスの提供に努めるとともに世話人が食事の提供や生活面における対応を行いました。

生活支援サービス	個別支援と生活支援体制の充実	一人ひとりの障がい特性やニーズを考慮し作成した個別支援計画に基づいて、サービス管理責任者が中心となり、適正な支援サービスの提供に努めました。
	高齢ご利用者への支援	身体機能や精神活動の低下が著しい高齢のご利用者に対して、本人及びご家族の意向などを踏まえたうえで、他の福祉サービスへ円滑に移行出来るよう調整などの対応を行いました。
	関係機関との連携	就労支援施設や企業実習先、町社会福祉協議会、自立支援協議会等の関係機関と協力し、包括的な支援に努めました。
生きがい社会参加	権利擁護の推進と虐待防止	虐待防止委員会や研修機会の確保などをとおして、ご利用者の人格と人権を尊重した支援サービスを徹底し、虐待防止の取組みを更に推進しました。
	企業実習及び日中活動支援の充実	企業実習先へ定期的な訪問と連絡の徹底に努め、ご利用者が安心して活動先へ通うことが出来るよう支援を行いました。
	余暇活動支援の強化	余暇活動については、ご利用者の意向などを汲み取りながら、小規模単位や屋外の活動等を多く取り入れるなど感染症に配慮した活動を行いました。
保健衛生	衛生管理と感染症対策	日々の健康チェックや手指消毒等をとおして、ご利用者、職員の感染症の予防に対する意識向上を図るとともに、感染症対策に必要な備品について、定期的に確認し備蓄量の確保に努めました。
食事提供	食事サービスの提供	栄養士が作成した献立表に基づき、朝食及び夕食を提供しました。また、家庭的な食事環境となるよう世話人とご利用者が共同で調理を行うなどの機会を多く取り入れました。
家族会	家族会の事務局支援	家族会と連携して、各種事業が円滑に運営出来るように支援を行いました。
地域移行	自立対策	共同生活住居からの自立を希望するご利用者に対して、地域生活に必要なスキルアップに向けた支援を行いました。

3 職員の研修、研究体制

○関係機関の主催する各研修会等の参加は次のとおりです。(全てWEB研修)

研修事業名	参加者名	参加人数
北海道知的障がい福祉協会	管理者、サビ管、生活支援員	3名
日本知的障害者福祉協会	管理者、生活支援員	2名
その他	サビ管、支援員	3名

○事業所主催による各研修会は次のとおり実施しました。

研修名	開催回数	参加職員
内部研修会	5回	35名

4 年間行事実績

令和3年度の年間行事実績は、別紙1のとおりです。